

6. マイントピア別子を避難所で活用する際の利点及び課題

5では、マイントピア別子で予定していた避難者以上の避難者が避難したことを紹介した。ここでは、これまで述べたことをもとに、避難を促す効果や避難所としての利点、今後の課題についてまとめる。

(1) 避難促進の効果

平成26年災害の際、本来、上部高齢者福祉センターに避難する人が、マイントピア別子に避難することで、対象世帯以上の避難者が避難している。このことから、避難の促進につながっていることが言える。これについては、立川地区では過去に多くの災害を経験し、地元住民の防災意識の高さが影響していると考えられるが、マイントピア別子のような避難環境の良い施設を避難所としたことも要因の一つであろう。

(2) 避難所としての利点

マイントピア別子を避難所として活用する場合、特にこの山間地では車が重要となるが、駐車場の広さは大きな利点となる。その他、施設内の広さ、十分な毛布の数、ペットを連れてくることができること（入口付近の大きな庇下を活用）、身障者用トイレなども利点としてあげることができる。

また、日頃、避難所として活用する際は、温泉施設の使用や、レストランやお土産売り場の活用等は行っていないが、平成16年災害の際に、これらの施設を活用した実績を地元住民が知っていることから、もし大災害となり立川地区が孤立し、長期の避難生活を余儀なくされた場合、同様の対応が行われるであろうと考える人が多くいることが予想され、そういった安心感も大きいと考えられる。

なお、立川地区住民にマイントピア別子を避難所として利用したときの良い点を聞いたところ、「気心が知れた住民同士の避難は苦痛にならない」「台風のたびに絆ができた」「避難が楽しかった」といった感想があり、避難所生活が地域住民との触れ合いの場として利用されたことがうかがえる。

(3) 今後の課題

一方、下流部の住民が、避難環境が良いからと言って、上流部にあるマイントピア別子に避難することは、避難途中に土砂災害に遭遇することも予想されるため、そういった方々を本当にマイントピア別子に避難させて良いかが今後の課題としてあげられる。

また、マイントピア別子は、営業は10時までで、公衆浴場法の関係で、毎日掃除をして、お湯を入れて、次の営業に備えることとなるが、夜中の1時30分～朝7時までは無人となる。大雨が予測されるときは、無人となる1時30分を延長して、朝まで対応することは可能だが、ゲリラ豪雨の場合は判断が難しいところである。マイントピア別子の鍵の管理は、基本的に市職員及び社員のみであるため、無人の時間帯における避難所としての活用は今後の課題ではあるが、近隣住民にマイントピア別子の社員もおり、その者に鍵を預けるなどして対応することも今後考えられる。

7. おわりに

本稿では、避難環境の良い施設が、地域の避難行動を促進している事例として、新居浜市のマイントピア別子を紹介した。他の地域においても、地元の観光施設を活用することで、避難の促進に役立てることに繋がることを期待したい。

最後に、新居浜市防災安全課の高橋係長においては、お忙しい中本稿作成のためのヒアリングにお付き合いいただくとともに、原稿のチェックをしていただいた。この場を借りてお礼申し上げたい。